

花

センターだより

緑

2007・7
創刊号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

創刊号に寄せて

(財)兵庫県園芸・公園協会 理事長 藤本 和弘

日々に暑さが増す季節となりました。私どもの(財)兵庫県園芸・公園協会に「花と緑のまちづくりセンター」が今年4月に誕生して早4か月が過ぎようとしています。

昨年、50年ぶりに兵庫県で開催された「のじぎく兵庫国体」、そして、「のじぎく兵庫大会」。その時、全国から来られた方々に美しい兵庫を見ていただこうと、県民の皆様が主体となった全県花いっぱい運動が大きな盛り上がりを見せました。また、県民まちなみ緑化事業による都市の緑化が本格的に始まるなど、平成18年度は、花と緑の政策にとって節目の年となりました。

こうした中、これらの運動の盛り上がりを一過性のものとせず、“まちの緑づくり活動”へ継承、発展させていくことが何よりも大切と考え、県民の皆様方と共に花と緑のまちづくりへの実践活動を推進する組織として、皆さんに親しんでいただきました当協会の「緑の相談所」と、これまで兵庫みどり公社にありました「花と緑のまちづくり研究所」、「都市緑化部門」を統合して、新たに「調査研究」、「普及啓発」、「活動支援」を総合的に行っていこうと「花と緑のまちづくりセン

ター」が誕生しました。

当協会では現在、10か所の県立公園とフラワーセンターの管理運営を行っています。当センターはこれらをフィールドとして活用し、調査研究や実践活動を展開していこうとしています。また、兵庫県は、皆様もご承知のように神戸阪神、丹波、但馬、播磨、淡路の五つの地域ごとに独自の歴史と文化、自然や風土を有しています。このような多様性と個性豊かな兵庫県では、紋切り型ではなく地域に合ったまちづくりの展開が求められるのはいうまでもありません。そのため、当センターでは地域に合った多彩な事業展開をめざそうとしています。これらの成果は、今後、この「センターだより」で情報発信を行っていくつもりです。とは言っても、「センターだより」は当センターからの情報提供の場としての役割を担うだけでなく、皆様と当センターを結ぶ架け橋として、情報交換の場、意見交換の場として皆様と一緒に育っていきたく考えていますので、どうかよろしくお願ひします。



「センターだより」発行の挨拶

花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎 (兵庫県立淡路景観園芸学校校長)

明石公園の各所でサクラが満開であった4月1日、(財)兵庫県園芸・公園協会に「花と緑のまちづくりセンター」が新たにオープンしました。早いもので、既に4か月近くが過ぎ、今では、ヘメロカリスやミズキ、ウツギの花が美しく咲く季節になりました。

明石公園は、明石駅前の市街地に位置していますが、その豊かな自然環境の素晴らしさに、今更ながら感動を覚えます。

「花と緑のまちづくりセンター」は、県民主体による花と緑のまちづくり活動を通して、美しい県土を創り、守り、育て、そして、次代を担う子供たちに美しい故郷を引き継ぐため、県民活動の円滑な推進やまちづくり運動の様々な課題解決等にお役に立つため、このたび開設したものです。

センターの主な業務としては、花と緑のまちづくり活動における地域のリーダーである「花緑いっぱい運動推進員」の選考や活動支援、兵庫県の花と緑のまちづくりの指導的役割を果たすことのできる人材として「ひょうごガーデンマイスター」※の認定および活動支援、県下各地の花と緑のまちづくり団体の活動支援を行う「緑のパトロール隊」の設置および活性化、兵庫県を代表する「花と緑のまちづくりイベント」の実施、「持続型花緑活動支援事業」や「県民まちなみ緑化事業」などの花や緑を増やし、育てていくための各種事業に実施、活動の支援、協力等を行っています。

平成18年度に開催された「のじぎく兵庫国体」と「のじぎく兵庫大会」では、全県花いっぱい運動が最高潮に達しました。平成19年度においては、これまでの成果や地球温暖化の抑制をめざした環境重視社会へ転換等社会環境の変化もふまえ、一、二年草を主体とした今までの花壇づくりから、環境型、循環型、省力型、低コスト型である持続可能な花壇づくりに欠かせない「宿根草、地被植物、樹木等」を主体とした植栽方法への転換、さらに、兵庫県の多様な地域特性を表現し、環

境に適合した自生種の利活用など奨励し、推進していきたいと考えています。年数回に及ぶ一年草の植え替えによる一年草の使い捨てから脱却し、植物を生命あるものにとらえて長年にわたって育成することにより、植物への深い愛情を持った花と緑のまちづくりの展開やまちづくりグループが育っていくことを期待しています。この持続可能な花と緑のまちづくりにより、より多くの県民の皆様による実践活動への参加促進や自立性や継続性が高まっていくことを期待しています。

花と緑のまちづくりセンターは、既に明石公園に設置されている「緑の相談所」の機能を継続しながら、これまで好評いただいている園芸相談や園芸教室をさらに充実させるとともに、明石公園の自然を生かした植物、昆虫、キノコなどを観察し触れてみる自然観察会を開催するなど、より多くの県民の皆様に自然に親しんでいただけるような活動をしていきたいと考えています。

今回、県民の皆様への情報発信の一環として、従来の「緑の相談所だより」と「花と緑のまちづくり通信」を統合して、新たに「センターだより」を発刊することになりました。

県民の皆様への情報発信や情報交換の手段の一つとして、観察会などのイベントや、園芸に関する情報の提供、行政による花と緑のまちづくり支援策など、役に立つ、楽しく読みやすい「センターだより」を発行していくこととなりました。県民の皆様からの要望や感想をお待ちしています。

花と緑のまちづくりセンターは、兵庫県における花と緑の中核的施設として、真に県民の皆様の役に立てるよう、職員一同、努力してまいりますので、ご指導、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

※「ガーデンマイスター」は登録商標です。

失われた花の復活によるまちづくり

兵庫県立大学教授 田原 直樹

まちのシンボルとしての花木

あなたがお住まいの市や町の花（市花、町花）をご存知でしょうか。花だけではなく樹木（市木、町木）もあります。花や樹木が、まちのシンボルとして使われるようになったのはいつごろなのかわかりませんが、どこのまちにも住民に親しまれる地域を代表する花木があります。

県立人と自然の博物館が立地するニュータウン、フラワータウンでは、地区にさまざまな花木の名前がつけられています。花言葉が示すように、もともと花木には強い象徴性があり、まちのイメージや未来が花木に託されているのです。

個人のレベルでも同様に、家紋の形で花木に家のアイデンティティを託してきました。もちろん家紋は花木に限るわけではありませんが、花木の紋はもっともなじみ深い家紋のイメージとあってよいでしょう。

花木は、古くからアイデンティティのよりどころであり、シンボルであったことがわかります。

まちのアイデンティティの形成

これからのまちづくりの課題の一つに、まちの個性の形成があります。かつてあった地域性が失われ、どこでも似たような景観となってしまった現在、わがまちらしさを取り戻すことは、みずからのまちのアイデンティティを形成することでもあります。

大阪市福島区では、歴史的な花の記憶を頼りに、まちづくりに取り組んできました。「野田の藤」といってもピンとこない人が多いと思いますが、この地域はかつて「吉野の桜」「高雄の紅葉」と並び称されたほどの藤の名所でした。往時の景観は、江戸後期に出版された『浪花百景』に見ることができます。その後、牧野富太郎博士によって「ノダフジ」と命名されるに至りますが、空襲による被害などでほとんどが消失し、忘れられた存在になっていました。

70年代に入ると、地元の人びとの手によって復興が進められ、公園や小学校の校庭などにフジのある景観が戻ってきました。子どもたちのふるさとの原風景にフジが復活したことを意味します。

文化的景観をめざして

文化財保護法の改正により、宮沢賢治ゆかりの地が国指定の名勝の扱いを受けるなど、文化的景観が注目を集めています。ノダフジのようなものが、どこのまちにでもあるわけではないと思いますが、武蔵野市では、100年後にすべての小学校の校庭に巨樹がある景観形成をめざしています。花木は未来の文化的景観をかたちづくる資源としての潜在力を秘めているのです。



『浪速百景』野田藤

これからの花と緑のまちづくりと園芸の進化 1

技術顧問 藤岡 作太郎

1. 新しいガーデンシティの創造と条件

21世紀になってから求められる花と緑のまちづくりの条件は、前世紀までとかなり変貌しているといえる。それは草花や樹木を植栽して美観を整えるだけでなく、まず防災安全を配慮した仕組が大切だということである。そのことは阪神・淡路大震災で多くのことを学ぶことができた。例えば美しい庭づくりのためでなく、住宅の倒壊をかなりくい止める庭木を使ったり、燃えにくい生垣を植栽すること。さらに反省点としては、余りにも街そのものに水路がなさすぎることである。欧米では、水都以外でも水辺の創造を先んじているのである。国内でも素晴らしいモデルはある。飛騨の古川や島根県の津和野の堀割や規模の大きな堀割として佐賀市がある。江戸初期に時の城主・鍋島公の大英断で、街の縦横に大堀割が巡らされているのである。今日の佐賀市は、防災だけでなく、汚水浄化のためにシュロカヤツリグサやセキショウを水辺に植栽することで、水質は美しくなる研究と実践が進んでいる。隣県の熊本市も同じ施策を取り入れているし、海外まで波及し、オーストラリアのメルボルン、首都キャンベラ市も同様に汚水の浄化を同様の植栽が応用されているのである。

一方燃えにくい防災樹については、先の震災であのクスノキまでが防災に役立ったことが目のあたり見とどけた。このことは、兵庫県でこれまた江戸の初期に



カナダにおけるマユミ



セイヨウボダイジュ



燃えにくいタブノキ



カナダにおける日本のカエデ
幸福のシンボル

姫路の本多公と明石城主の小笠原公の英知が反映して、播州一円の民家の前栽に「播州五木」としてカシ、モッコク、モチノキ、ヒイラギ、ナンテンなど、また出石城主は更にタブ、タラヨウなどを加えた施策がなされ、今も随所に残っているのである。

ヨーロッパでは街のシンボルとして、まず小公園を盛んにつくってきた経過がある。愛のシンボルリンデンでホフ(中庭の意味)のあるチューリッヒ、オランダのキューケンホフ、プラハ、ベルリンの大並木など街づくりには永続する恒久性のある緑の創出を優先している。シナノキを加えたリンデンホフ、カエデ類のメイプルホフ、カツラホフなど日本ならではの基本的なガーデンシティの要創造をまず行わなければなるまい。

次に人々の暮らしには、六感を植物に求め充足することをもっと強調すべきだと信じる。日本の原典の一つとも言える般若心経には六根清浄、六境の調和を生きる原典においている。視覚だけにとらわれすぎる施策より、香り、音楽、せせらぎ、呼鳥などの聴覚など六感を強調すべきである。六根清浄では、身のことと意(心)を求めている。園芸とは、趣味でなく幼児、少年期からの人間形成に取り入れるアメリカ、カナダに学んだ、社会園芸の必要性は、子供たちの情緒を育み、健康面での肥満や体質改善と併せ、非行、犯罪防止に



飛騨の高山市古川町



ウンター・デン・リンデンの並木



カナダでのカツラ

寄与する大英断を早急にとらなければならない。学校園だけでなく、地域のリーダーによる児童園を創設して、健全な県政に反映することが先決であろう。

2. 暮らしの実態に反映した園芸の一つに夜に咲き夜に香る植物育成への目覚め

万葉集にも詠われているように植物には夏場に多い、夜咲き、夜に香る草花は随分多い。淡路花博で成功したナイトガーデンも、人々の情緒を育む深みのある目覚めをガーデニングに求める一つのきっかけにはしてはどうか。ユウガオ、クレオメ、オシロイバナ、ヘチマ、ヒョウタン、コダチ性チョウセンアサガオ（ダツラ）、ヤコウボク、サンユウカ、ジャスミン類、ハマナス、ハマユウと素晴らしい香りが夕暮れから夜にかけて、庭やベランダで放ってくれるのである。ナイターは、サッカーや野球だけでなく、私たちの狭い小庭やベランダで演出できる。寝静まるまでの時間にスポットライトを近隣に迷惑のかからない範囲で照らし、夜咲き香る素晴らしいロマンティックな世界のあることを知ることは、情緒を育くむきっかけとして、今夏やってみることをお奨めする。4時に咲く花としてありふれてはいるがオシロイバナがあるし、時刻を告げてくれるヤコウボクは、瀬戸内では7時になると香り始めるのである。香りが人々の心をなごまし、元気づけることは古い歴史の中にあつた。日本の香りの文化は遠く聖徳太子の時代に、南方から紀淡海峡を北に向い兵庫県の淡路島に辿り着いた流木に始まる。ときの漁夫たちが浜辺で流木で焚火をしていると素晴らしい香りが放ち重宝に、ときの宮内庁聖徳太子に献上したと「日本書紀」に明記されているのである。いわゆる沈香で、まさに日本文化の発祥は淡路島だったのである。今日普及している西洋のハーブは燃やすと、天上向いて香りが昇るが、東洋の香りは床に向ってたなびくことを知ってほしい。東洋の五香木とは沈香、乳香、白檀、安息香、天台烏薬である。この中で、この夏場の時期に植木として宝塚の山本あたりで手にすることができるのは、天台烏薬だけである。日本に帰化し、紀伊半島にかなり見られるようであり、植木として販売もしている。



クレオメ



木立ちチョウセン
アサガオ「ダツラ」



ヤコウボク



ブッドレア・ダビディー

香りは、私たちの健康に欠くことは出来ない。六感とは、視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚、情緒（心）であり、六根清浄とは般若心経では無眼、耳、鼻、舌、身、意とあり、六境とは無色、声、香、味、触、法となっている。これらを調和したガーデニングに取り組む具体性と、これを手法として花と緑のまちづくりの理念を体系づけることが大切なのである。古くからの教えは、20世紀に入って薄れたかとも考えられるが、姿、形、色だけを究める片寄った単純な考え方は、私たちの心身共に健やかな生き方とは言えないのである。とりあえず、真夏の夜の夢でなく、真夏ならこと味わってほしい夜に咲き香る。ナイトガーデンに目覚める。

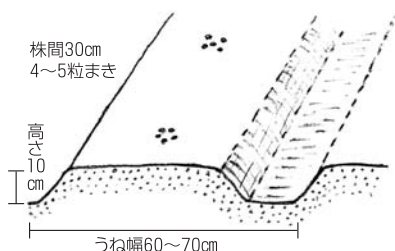


ナイトガーデン（北海道・恵庭市）

ダイコンのたねまき

Q 家庭菜園でダイコンを育ててみたいと思います。たねまきの方法と生育初期の手入れについて、どのようにすればよいですか。

A 秋まきのダイコンのタネまきの時期は8月下旬から9月上旬です。タネまきの2週間前に苦土石灰を㎡当たり100gを施して耕します。1週間前には堆肥を2kg、化成肥料(N-P-K=15-15-15)100gを施して深く耕しておきます。土中に未熟な堆肥や小石などがあると、「また根」のできる原因となるので注意します。畝(うね)幅60~70cmの平畝(うね)をつくり、株間30cmにして、1か所に4~5粒を深さ1cmにまきます。間引きは3回に分けて行ない、同時に生長にあわせて土寄せをします。1回目の間引きは、本葉1枚が出た頃3本立に、2回目は本葉2~3枚のころ2本立に、3回目は本葉6~7枚のころ1本立にして、1㎡当たり30gの化成肥料を施します。



スイセンの花を毎年楽しもう

Q スイセンを庭に植えて数年になります。葉がよく茂ってふえていますが、花が少ししか咲きません。どうしたらよいでしょう。

A ①長年植えたままにしておくと球根がふえて重なりあい、大きくなれず花立ちが悪くなります。3~4年に1回は葉が枯れる初夏に球根を掘り上げて、球根は分けずに日陰で干して秋まで貯蔵します。9月下旬~11月に分球して日当たりの良い場所に植えます。間隔は間に2球入る程度、深さは2球分の土がかかる程度にします。最初の年は球根に花芽がないので咲きませんが2年目から咲きます。②花が終ってから自然に枯れるまで葉を切らないようにします。葉でつくられる栄養分を使って球根を太らせます。十分に太らないと花芽が付きません。③花が咲き終わったらすぐにお礼肥として三要素等量の緩効性化成肥料を施します。肥料不足や無肥料では栄養不足となり球根の太りが悪くなります。

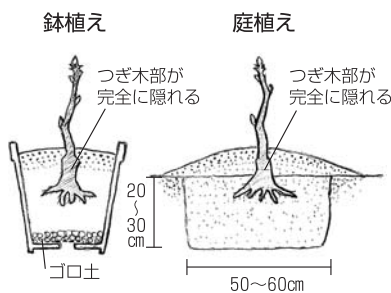
●●● 季節の園芸相談

相談員 福本 誠

ポタンを植え替えて来年豪華に咲かせたい

Q この頃、花が小さくなってきました。来年はもっと大きな花を楽しみたいと思います。植え替えの方法について教えてください。

A ポタンは9月に落葉して休眠期に入るので9月から10月は植え替えや植えつけの適期です。植えつけは、日当たりがよく、冬の寒風の避けられる場所にします。ポタンはシャクヤクにつぎ木されたものが一般的です。苗はできるだけ早く自根を出すために接いだ部分が土中に埋まるように植えつけます。庭植えは、直径50~60cm、深さ20~30cmの穴を掘り、腐葉土3~5割加えてよく混ぜます。土を埋め戻した場所の上に根鉢を置き、余った土を株元に盛り上げるようにして、植えつけます。鉢植えは、なるべく大きな鉢(10号以上)に赤玉土4、庭土3、腐葉土3の割合に混ぜた用土に植えつけます。



夏に元気なコウライシバの手入れ

Q シバが踏まれて薄くなったところが所々にあります。なんとか夏の間に回復したいと思います。よい方法はないでしょうか。

A コウライシバは光が強いほど光合成が盛んで、高温に耐え、乾燥にも強い特性があります。7、8月の生育最盛期は肥料を月に1回、化成肥料(N-P-K=10-10-10)を1㎡当たり30gほど施して水をやります。刈り込みは10日から2週間に1回、刈り込み高さは2~4cmにして、低く刈らないようにします。刈り込むとそれが刺激になって茎が横方向に伸びて広がり、茎の数がふえて、しっかりした芝生になります。その様なシバは雑草や病害虫に強く、秋には栄養を貯え、春の芽出しがよくなります。コウライシバは乾燥に強いのですが、梅雨明けの後、晴天が続いたときや、葉が細く丸まり始めたらずップリ水を与えます。



花ごよみ

	花名	7月	8月	9月
フラワーセンター	クフェア	●		●
	マリーゴールド	●		●
	コリウス	●		●
	メランポジウム	●		●
	サルビア	●		●
	スイレン	●		●
	トレニア	●		●
	ニューギニアインパチェンス	●		●
	ハナスベリヒユ	●		●
ハゴニアセパン・フロレンス	●		●	
西猪名公園	クチナシ	●	●	
	ヘメロカリス	●	●	
	アサガオ		●	●
	サルスベリ		●	●
	イリオモテアサガオ		●	●
一庫公園	ネムノキ	●	●	●
	クサギ		●	●
	ナツフジ	●	●	●
	カラスザンショウ	●	●	●
	マルバハギ			●
甲山森林公園	サルスベリ		●	●
	ショウブ	●	●	
	ノリウツギ		●	●
	ヤマハギ		●	●
	ツクシハギ		●	●
	ミノハギ	●	●	●
	クサギ		●	●
	ハンゲショウ	●	●	●
	サワヒヨドリ		●	●
	イヌタヌキモ		●	●
アキノタムラソウ		●	●	
有馬富士公園	ナツズイセン	●	●	
明石公園	アメリカデイゴ	●	●	●
	スイレン	●	●	●
赤穂海浜公園	アメリカデイゴ	●	●	●
	アメリカノウゼンカズラ	●	●	●
	サルスベリ		●	●
	ハマボウ	●	●	
	ムクゲ	●	●	●
	フヨウ			●



● 写真提供: 田中 克朋



花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、7月～9月にかけて、次の催しを計画しています。

7月		
フラワーセンター	食中植物展	7/1～9/30
	斑入り植物と夏咲き野生ラン展	7/12～7/17
	サマーイルミネーション	7/20～9/2
有馬富士公園	涼感を呼ぶ水辺の植物の寄せ植え	7/20
赤穂海浜公園	涼感を呼ぶ水辺の植物の寄せ植え	7/21
花緑センター	第21回あさがお展	7/25～31
8月		
フラワーセンター	夏のバラ剪定実習(要予約)	8/19
播磨中央公園	バラの剪定講習会夏期編	8月下旬
有馬富士公園	観葉植物の寄せ植え	8/17
赤穂海浜公園	観葉植物の寄せ植え	8/8
9月		
フラワーセンター	植物スケッチ展	9/22～10/2
有馬富士公園	多肉植物のタテローづくり	9/21
赤穂海浜公園	多肉植物のタテローづくり	9/12

(※日程・内容については変更することがあります。)

花と緑のまちづくりセンター

●平成19年7月1日(年4回発行)

●編集発行 財団法人兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

〒673-0847 明石市明石公園1-27
TEL :078(918)2405
FAX :078(919)5186
Eメール: ifno_midori@hyogopark.com



～編集後記～

夏の明石公園は樹木が多いせい
か、木陰をふきぬける風が心地よ
い毎日です。花と緑のまちづくり
センターまでは少し距離がありま
すが、喫茶バルコのソフトクリ
ームを楽しみに歩いて来て頂くのが
この季節のおすすめです。

なお、センターだよりでは皆様
のご意見・ご感想お待ちしております
ますのでぜひ左記までご連絡下さい。

平成19年 7～9月 園芸教室のご案内

1 講座だけでも受けられます。事前申し込み必要。受講料は1回100円。
日程・申し込み受付開始日は変更になることがあります。

●一般講座

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
11	7/6 金	花木の手入れ ・ウメ・アジサイ・ツツジ等の育て方と剪定法	高仙坊義治	6/29
12	7/13 金	初夏を染める ・アイの生葉を使って火を使わずに美しく染める	※材料費1,800円必要 前田 初代	6/29
13	7/14 土	ハンギングバスケットの楽しみ方 ・ベランダ環境条件への対処法及びハンギングバスケットの作り方と管理法	※材料費1,900円必要 高見 敬次	6/30
14	7/20 金	観葉植物の育て方 ・主な観葉植物の育て方と飾り方	澤田美代治	7/13
15	7/25 水	福助菊の作り方 ・福助菊展と連携した菊の作り方の講習・福助菊苗の有償頒布	原 忠敏	7/18
16	7/29 日	森で遊ぼう!夏 ・テーマは昆虫	西森由美子	7/22
17	8/3 金	秋・冬野菜の作り方 ・ホウレンソウ・ダイコン等の代表的秋・冬野菜の作り方	岩本 政美	7/27
18	8/17 金	球根の飾り方 ・小球根を使った寄せ植え実習と飾り方	※材料費1,600円必要 村山 清	8/3
19	8/25 土	花の文化と秋の寄せ植え実習 ・秋の七草の寄せ植えを作る	※材料費1,900円必要 藤岡作太郎	8/11
20	9/1 土	山野草の寄せ植え実習 ・山野草・小花木の寄せ植えと苔玉作り実習	※材料費1,500円必要 福本 誠	8/18
21	9/7 金	癒しの園芸 ・植物と人間との癒しの関係、ボランティアの役割とは何かなどについて	豊田 正博	8/31
22	9/14 金	秋の草花と冬花壇 ・最近人気のある秋まき草花の種類・作り方、家庭の秋・冬花壇作り	小山 重示	9/7
23	9/21 金	ハーブの利用法(セージ) ・セージを主とした秋のハーブ・葉草の作り方及び利用法	澤田美代治	9/14
24	9/22 土	野草ウォッチング(秋) ・秋の野の花を観察・写生することで野草に親しむ	奥山佐企子	9/15
25	9/28 金	菊小品盆栽の作り方 ・菊の小品盆栽の作り方と今後の管理法	福本 誠	9/21
26	9/29 土	洋花の寄せ植え実習(秋) ・秋を彩る洋花の寄せ植えを作る	※材料費1,900円必要 藤岡作太郎	9/15

●園芸基礎講座コース(全4回) ※一括受講の形での追加受付できます。受講料は一括800円。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
2	7/22 日	Ⅱ 植物の機能と環境 環境条件が植物に及ぼす影響と環境に及ぼす植物の働きについて	山田 益男	随時

●基礎講座・植物の香りコース(全3回) ※一括受講の形で受付できます。受講料は一括600円。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	9/15 土	Ⅰ 植物の香りとの暮らし ・植物の香りとの暮らしとの係わりについて	岸野二三子	9/8

●参加型講座

※事前申し込み必要。参加は無料です。材料は相談所で用意。

	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
	8/5 日	樹木を観察しよう!展(夏) ・3枚程度の樹木の葉を写実することで樹木の生態を学ぶ	福本 誠	7/29
	8/19 日	絵手紙を描く(夏) ・夏の植物を絵手紙に描くことで植物に親しむ	岸野二三子	8/12

●お申し込み先:

花と緑のまちづくりセンター (9:00~17:00)
TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186
Eメール: info_midori@hyogopark.com